

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年8月9日
【四半期会計期間】	第24期第3四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	株式会社インタースペース
【英訳名】	Interspace Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河端 伸一郎
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
【電話番号】	03-5339-8680（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理管掌 岩淵 桂太
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
【電話番号】	03-5339-8680（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理管掌 岩淵 桂太
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第23期 第3四半期連結 累計期間	第24期 第3四半期連結 累計期間	第23期
会計期間	自 2021年10月1日 至 2022年6月30日	自 2022年10月1日 至 2023年6月30日	自 2021年10月1日 至 2022年9月30日
売上高 (千円)	5,274,280	5,527,271	7,123,290
経常利益 (千円)	995,973	751,984	1,292,906
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	616,906	477,582	563,456
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	591,999	471,008	559,719
純資産額 (千円)	5,387,429	5,668,468	5,355,148
総資産額 (千円)	10,961,806	10,757,775	11,066,927
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	92.31	76.09	85.62
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	49.1	52.7	48.4

回次	第23期 第3四半期連結 会計期間	第24期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	25.82	10.18

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために行われていた社会経済活動の制約がほぼ解消され、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続きました。しかしながら、世界的な金融引き締め等が続く中で海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇や金融市場の変動等に十分注意する必要がある、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが属するインターネット広告市場は、継続的な成長が見込まれ、2023年のインターネット広告媒体費は2兆7,908億円まで拡大することが予測されております（株式会社CARTA COMMUNICATIONS・株式会社D2C・株式会社電通・株式会社電通デジタル・株式会社セブテーニ・ホールディングス調べ）。

こうした事業環境のもと、当社グループは「生産性向上と新規プロダクトの開発」「メディアの継続成長と規模拡大」「グローバル展開のさらなる推進」を重点項目として掲げ、課題に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は5,527百万円（前年同四半期比4.8%増）、営業利益は682百万円（前年同四半期比15.3%減）、経常利益は751百万円（前年同四半期比24.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は477百万円（前年同四半期比22.6%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### <インターネット広告事業>

当事業は、インターネットを活用した成果報酬型広告であるアフィリエイトサービスを軸に事業を展開しております。主力のアフィリエイトサービス「アクセスロード」においては、通信サービスや恋活などの広告需要を取り込んだものの、広告主の広告予算抑制に伴い、金融分野の暗号資産関連は伸び悩みました。一方、海外事業では、現地メディアパートナーの新規開拓に注力した結果、登録メディアパートナー数は168万まで成長し、今後もさらなる拡大を図ってまいります。また、店舗向けアフィリエイトサービス「ストアフロントアフィリエイト」においては、既存のストック収益を順調に積み上げたほか、2023年1月にリリースした「ポケットバックアップ」の販売チャネルを拡大し、ユーザー獲得に注力いたしました。さらに、2023年4月に事業取得したWebサイト改善ツール「賢瓦」は、機能改善に注力したほか、ユーザーの獲得を図るためのプロモーションを実施いたしました。今後も、新たな収益の柱として成長させるため積極的に投資を行ってまいります。

これらの結果、当事業の売上高は3,464百万円（前年同四半期比2.7%増）、セグメント利益は450百万円（前年同四半期比6.5%減）となりました。

#### <メディア運営事業>

当事業は、日本最大級のママ向け情報サイト「ママスタ」を軸に事業を展開し、消費者にとって有益かつ質の高いコンテンツやサービスの創出に注力してまいりました。主力の「ママスタ」においては、記事コンテンツの充実を図ったほか、行政と子育て世帯の架け橋となるため、行政に関する情報発信も積極的に行ってまいりました。一方で、広告表示の規制および広告単価下落の影響により収益は減少しております。学習塾の検索サイト「塾シル」においては、ターゲットを絞った営業活動に注力した結果、有料掲載教室数が1万教室を突破しました。さらに、連結子会社の株式会社TAG STUDIOでは、求人メディアを中心に収益は好調に推移したほか、運営するメディアの検索順位向上を図るため、コンテンツの拡充やSEO対策にも注力いたしました。

これらの結果、当事業の売上高は2,063百万円（前年同四半期比8.5%増）、セグメント利益は231百万円（前年同四半期比28.3%減）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### 資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は9,157百万円となり、前連結会計年度末に比べ492百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が260百万円、売掛金及び契約資産が311百万円減少したことによるものであります。固定資産は1,599百万円となり、前連結会計年度末に比べ183百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が11百万円、無形固定資産が182百万円増加した一方で、投資その他の資産が10百万円減少したことによるものであります。無形固定資産の増加は株式会社tactの事業の一部を吸収分割により取得したことに伴い、のれんが136百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、資産合計は10,757百万円となり、前連結会計年度末に比べ309百万円減少いたしました。

### 負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は5,019百万円となり、前連結会計年度末に比べ623百万円減少いたしました。これは主に未払法人税等の納付により未払法人税等が377百万円、買掛金が113百万円、賞与引当金が101百万円減少したことによるものであります。固定負債は69百万円となり、前連結会計年度末に比べ0百万円増加いたしました。

この結果、負債合計は5,089百万円となり、前連結会計年度末に比べ622百万円減少いたしました。

### 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は5,668百万円となり、前連結会計年度末に比べ313百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益477百万円および剰余金の配当156百万円により、利益剰余金が320百万円増加した一方で、為替換算調整勘定が10百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は52.7%（前連結会計年度末は48.4%）となりました。

## (3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (2023年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,967,200	6,967,200	東京証券取引所 スタンダード市場	完全議決権株式で 株主の権利に特に 制限のない株式 単元株式数 100株
計	6,967,200	6,967,200	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	-	6,967,200	-	984,653	-	725,000

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 690,300	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,275,900	62,759	単元株式数100株
単元未満株式	普通株式 1,000	-	-
発行済株式総数	6,967,200	-	-
総株主の議決権	-	62,759	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、自己株式69株が含まれております。

【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社インタースペース	東京都新宿区西新宿2-4-1	690,300	-	690,300	9.91
計	-	690,300	-	690,300	9.91

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年10月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PWCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,756,353	5,496,344
売掛金及び契約資産	3,718,405	3,407,034
その他	183,948	261,543
貸倒引当金	8,045	7,093
流動資産合計	9,650,661	9,157,828
固定資産		
有形固定資産	145,059	156,347
無形固定資産		
のれん	-	136,126
その他	396,152	442,524
無形固定資産合計	396,152	578,650
投資その他の資産		
その他	893,632	867,001
貸倒引当金	18,578	2,053
投資その他の資産合計	875,054	864,948
固定資産合計	1,416,266	1,599,946
資産合計	11,066,927	10,757,775
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,576,147	4,462,541
未払法人税等	424,469	46,537
賞与引当金	191,746	90,285
役員賞与引当金	30,000	-
その他	420,682	420,563
流動負債合計	5,643,046	5,019,928
固定負債		
その他	68,732	69,378
固定負債合計	68,732	69,378
負債合計	5,711,778	5,089,306
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	984,653	984,653
資本剰余金	725,000	725,000
利益剰余金	4,221,663	4,542,324
自己株式	626,270	626,270
株主資本合計	5,305,047	5,625,708
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,796	30,430
為替換算調整勘定	22,537	12,329
その他の包括利益累計額合計	49,333	42,759
新株予約権	768	-
純資産合計	5,355,148	5,668,468
負債純資産合計	11,066,927	10,757,775



(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
売上高	5,274,280	5,527,271
売上原価	873,800	990,070
売上総利益	4,400,479	4,537,200
販売費及び一般管理費	3,595,004	3,854,568
営業利益	805,475	682,632
営業外収益		
為替差益	49,771	17,924
持分法による投資利益	42,700	53,175
投資事業組合運用益	89,618	-
その他	11,675	8,186
営業外収益合計	193,766	79,286
営業外費用		
自己株式取得費用	853	-
投資事業組合運用損	-	6,326
外国源泉税	1,721	1,928
その他	693	1,679
営業外費用合計	3,268	9,934
経常利益	995,973	751,984
税金等調整前四半期純利益	995,973	751,984
法人税、住民税及び事業税	324,801	206,621
法人税等調整額	54,266	67,780
法人税等合計	379,067	274,402
四半期純利益	616,906	477,582
親会社株主に帰属する四半期純利益	616,906	477,582

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	616,906	477,582
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	35,019	3,633
為替換算調整勘定	12,751	15,087
持分法適用会社に対する持分相当額	22,864	4,880
その他の包括利益合計	24,906	6,573
四半期包括利益	591,999	471,008
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	591,999	471,008

【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定につきましては、前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した内容から重要な変更はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	142,409千円	156,482千円
のれんの償却額	19,834	7,164

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月9日 取締役会	普通株式	135,589	20	2021年9月30日	2021年12月27日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2022年5月12日開催の取締役会決議に基づき、2022年5月13日に東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(TOSTNET-3)により、自己株式422,200株の取得をおこないました。この結果、主として当該自己株式の取得により、前第3四半期連結累計期間において自己株式が522,494千円増加し、前第3四半期連結会計期間末において自己株式が626,270千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年10月18日 取締役会	普通株式	156,920	25	2022年9月30日	2022年12月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	インターネット 広告	メディア運営	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,372,123	1,409,610	4,781,734	492,545	5,274,280
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,249	492,618	494,868	494,868	-
計	3,374,373	1,902,229	5,276,602	2,322	5,274,280
セグメント利益	481,987	323,487	805,475	-	805,475

(注)1. 外部顧客への売上高の調整額は、報告セグメントにおいて代理人として処理した取引のうち、他の当事者がセグメント間に存在するため、四半期連結損益計算書上は本人として処理される取引であります。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第1四半期連結会計期間の期首から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更しております。なお従前の会計処理と比較して、前第3四半期連結累計期間のインターネット広告事業の売上高は、14,110,362千円減少しておりますが、セグメント利益への影響はありません。また、メディア運営事業の売上高およびセグメント利益は2,409千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	インターネット 広告	メディア運営	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,464,031	1,312,579	4,776,610	750,660	5,527,271
セグメント間の内部売上高 又は振替高	285	750,660	750,945	750,945	-
計	3,464,316	2,063,240	5,527,556	285	5,527,271
セグメント利益	450,743	231,888	682,632	-	682,632

(注)1. 外部顧客への売上高の調整額は、報告セグメントにおいて代理人として処理した取引のうち、他の当事者がセグメント間に存在するため、四半期連結損益計算書上は本人として処理される取引であります。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「インターネット広告」セグメントにおいて、2023年4月3日付で、連結子会社である株式会社N1テクノロジーズ(旧株式会社電脳広告社)が株式会社tactの事業の一部を吸収分割により取得したことに伴い、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては143,290千円であります。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

当社は2023年1月17日開催の取締役会において、株式会社tactが営む事業のうち、ヒートマップ分析ツール「賢瓦」を提供する事業について、当社の連結子会社である株式会社N1テクノロジーズ(旧株式会社電脳広告社)が吸収分割により取得することを決議し、当該決議に基づき2023年4月3日付で吸収分割による取得をしております。

1. 企業結合の概要

(1) 吸収分割会社の名称及び取得した事業の概要

吸収分割会社の名称	株式会社tact
取得する事業の内容	ヒートマップ分析ツール「賢瓦」の提供

(2) 企業結合を行った主な理由

当社グループはインターネット広告事業の「生産性向上と新規プロダクトの開発」を重要な成長戦略の一つと位置付けております。本吸収分割は、当社のアフィリエイトサービス「ACCESSTRADE」の提携アフィリエイトパートナーへの提供ツールとしてシナジーが期待できるなど、インターネット広告事業における新規プロダクトの提供と、当社グループの中長期的な成長、企業価値向上を図ることを目的としたものです。

(3) 企業結合日

2023年4月3日

(4) 企業結合の法的形式

株式会社tactを吸収分割会社とし、株式会社N1テクノロジーズを吸収分割承継会社とする吸収分割

(5) 結合後企業の名称

株式会社N1テクノロジーズ

(6) 取得企業を決定するに至った根拠

株式会社N1テクノロジーズが現金を対価として当該事業を取得したことによります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる取得した事業の業績の期間

2023年4月3日から2023年6月30日まで

3. 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	150,000千円
取得原価		150,000

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

143,290千円

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものです。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2022年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額(注)	合計
	インターネット 広告	メディア運営	計		
成果報酬型広告	2,348,218	-	2,348,218	-	2,348,218
成果報酬型広告(店舗型)	1,023,905	-	1,023,905	-	1,023,905
コンテンツメディア	-	1,158,826	1,158,826	-	1,158,826
比較メディア	-	250,784	250,784	-	250,784
調整額(注)	-	-	-	492,545	492,545
顧客との契約から生じる収益	3,372,123	1,409,610	4,781,734	492,545	5,274,280
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	3,372,123	1,409,610	4,781,734	492,545	5,274,280

(注) 外部顧客への売上高の調整額は、報告セグメントにおいて代理人として処理した取引のうち、他の当事者がセグメント間に存在するため、四半期連結損益計算書上は本人として処理される取引であります。

当第3四半期連結累計期間(自2022年10月1日至2023年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額(注)	合計
	インターネット 広告	メディア運営	計		
成果報酬型広告	2,346,483	-	2,346,483	-	2,346,483
成果報酬型広告(店舗型)	1,117,547	-	1,117,547	-	1,117,547
コンテンツメディア	-	1,060,562	1,060,562	-	1,060,562
比較メディア	-	252,016	252,016	-	252,016
調整額(注)	-	-	-	750,660	750,660
顧客との契約から生じる収益	3,464,031	1,312,579	4,776,610	750,660	5,527,271
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	3,464,031	1,312,579	4,776,610	750,660	5,527,271

(注) 外部顧客への売上高の調整額は、報告セグメントにおいて代理人として処理した取引のうち、他の当事者がセグメント間に存在するため、四半期連結損益計算書上は本人として処理される取引であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純利益	92円31銭	76円09銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	616,906	477,582
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	616,906	477,582
普通株式の期中平均株式数(株)	6,683,093	6,276,831
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	第4回新株予約権は、権利不確定により失効しております。 (新株予約権の数 1,860個、目的となる株式の数 186,000株、発行価格 1,471円)  第5回新株予約権は、権利不確定により失効しております。 (新株予約権の数 240個、目的となる株式の数 24,000株、発行価格 1,468円)

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月8日

株式会社インタースペース  
取締役会 御中

### P w C あらた有限責任監査法人 東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宗 雪 賢 二

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴 木 直 幸

#### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社インタースペースの2022年10月1日から2023年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年10月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社インタースペース及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

#### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と

認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。